ユネスコスクール

名古屋市立北高等学校
2025.05.30

Polaris news

【北高新聞 NO.202501】

「ユネスコ講演会」
― Meet the New World ―
（2025.05.22）

株式会社マザーハウスから、水野由真さんと前川拓巳さんにお越しいただき、１年生全員と、２～３年生の国際理解コースの生徒を対象に講演会をしていただきました。マザーハウスの理念である「途上国から世界に通用するブランドをつくる」ということの意味を伝えて頂きました。発展途上国の素材や文化、人材を大切にし、ものづくりに取り組んでいること、最後の一品まで丁寧にお客様に届けていることなどを聞きました。講演会の最後には、積極的に質問をする姿が見られ、生徒たちの途上国に対する意識も変化したようでした。

■生徒の感想より

- 途上国と対等に向き合い、ブランドを共につくる姿勢が心に残りました。また、物の背景や作り手の想いが価値を深めることを学びました。
- すべての商品が、生産国の文化を尊重していて素敵だと思った。途上国と言われる国でも、伝統産業など私たちが目を向けると新たな発見があると学べた。
- お客さんと現地の職人と会う機会を作ったり、商品を作っているときの裏側と想いも直接伝える取り組みが途上国についてあんまり知らない人でも知ることができるからいいと思いました。
- もし大人になって余裕が出てきたら、よく分からないブランドの物よりも、そのブランドの背景を知った上でマザーハウスのようなブランドの物を買いたいと思った。
- その国その国の土地の素材を活かして、環境にも優しい商品を作っていてとても素敵だなと思いました。
- 製品を作る際に、現地の特色を生かし、それぞれの製品に物語があることや、作る時のコミュニケーションは現地の言葉でしていて互いを尊重しているところは、消費者には伝わりにくいかもしれないけど、とても大切で素晴らしいことだと思いました。
- 安定した雇用を創出しつつ、その土地ごとにある文化の継承と産業の発展を兼ねることができるというのは衝撃を受けました。
- 途上国にはネガティブなイメージがあったけど、今日でガラッと変わりました。